SPACE INDUSTRY

アルテミス計画とは
人類が再び月を目指す理由

NASAが主導し、各国の宇宙機関や民間企業と進める有人月探査計画です。目的、ミッションの予定、乗り物、日本の役割を整理します。



2026年4月に4人が月を回って帰ってきたね。
じゃあ、月面に降りるのはいつなんだろう？

MISSIONS

ミッションの実績と予定

01	**アルテミスI** 2022.11 SLSロケットとオリオン宇宙船の試験飛行	無人
02	**アルテミスII** 2026.04 4人が月を回って帰還（4月1日〜10日）	有人
03	**アルテミスIII** 2027 地球を回る低い軌道で着陸システムを試験	予定
04	**アルテミスIV** 2028 最初の月面着陸	目標
05	**アルテミスV** 2028 月面ミッション。以降は年1回のペース	見込み

VEHICLES

地球から月面までの役割分担

STEP 01

SLSロケット

乗員を乗せたオリオン宇宙船を打ち上げる

→

STEP 02

オリオン宇宙船

乗員を月の近くまで運び、地球へ帰す

→

STEP 03

着陸機（HLS）

月を回る軌道で乗り換えて月面へ。SpaceXとBlue Originが開発

→

STEP 04

宇宙服・月面車

月面での活動を支える

着陸機は民間企業が開発し、NASAが買う・利用する形

JAPAN

日本の役割は月面を走る与圧ローバ

日本人宇宙飛行士の月面着陸の機会

2回

2024年4月の実施取決め

- 日本が担う

  有人与圧ローバ「ルナクルーザー」の開発・運用（JAXA・トヨタ）

- ローバの目標

  2人が普段着で生活、1日26km・10年で1万km（開発の目標値）

ローバの開発・運用と、月面に立つ機会が対になった取り決め

ARTEMIS ACCORDS

参加国が守るアルテミス合意

アルテミス合意の参加国

76か国

2026年9月28日時点（NASA）

- 始まり

  2020年にアメリカと7か国が開始

- 主な約束

  平和的・透明な活動、科学データの共有、歴史的な場所の保護

宇宙条約を土台に、実際の探査で起きる問題の扱い方を具体的に定めたもの

SUMMARY

まとめ｜アルテミス計画

01 NASA主導で、科学・経済・有人火星ミッションへの土台づくりが目的

02 アルテミスIIで4人が月を回り、最初の着陸はIVで2028年が目標

03 日本は与圧ローバを担い、月面着陸の機会を2回得ている

決まったことと未定のことを
分けて押さえておこう

着陸の日付やゲートウェイの今後の形は、
まだこれから決まるんだ。

